

2012年6月5日

$\mathbb{Z}/m\mathbb{Z}$ の構成

m を正の整数とし、 $a \in \mathbb{Z}$ が m で割り切れるとき $m|a$ と書く。 $a, b \in \mathbb{Z}$ に対して、 $m|(a-b)$ のとき

$$a \equiv b \pmod{m}$$

と書き、 a と b は m を法として合同である、という。このような式を合同式という。

$$\begin{aligned} [a] &= [a'], [b] = [b'] \\ \implies m|(a-a'), m|(b-b') \\ \implies m|((a-a') + (b-b')) \\ \implies m|((a+b) - (a'+b')) \\ \implies [a+b] &= [a'+b'] \end{aligned}$$

環 A において

$$\forall a \in A, a0 = 0a = 0$$

実際、 $a0$ の、加法に関する逆元を b とおくと、

$$\begin{aligned} 0 &= a0 + b \\ &= a(0+0) + b \\ &= (a0 + a0) + b \\ &= a0 + (a0 + b) \\ &= a0 + 0 \\ &= a0. \end{aligned}$$

$$\sum_{n=0}^{\infty} f(n)x^n = f(0) + f(1)x + f(2)x^2 + \dots$$

と書いてみて、 $f, g \in A^{\mathbb{N}_0}$ の積を考えると、多項式の展開となっている。